

(ア) から (コ) の 1 0 個の選択肢から () にもっとも適当なものを選びなさい。マークシートを二列ずつ使用し、回答が (エ) の場合は奇数行の d をマークします。また、回答が (キ) の場合は偶数行の b をマークします。

A リアリティーに対する強烈な感情を持ち、個人の人間精神をもっとも重視するのが **Henry James** (1, 2) である。彼の作品は心理的リアリズム小説といえる。また、幼少の頃から本国とヨーロッパを行き来して生活したことから、**洗練されたヨーロッパ文化** (3, 4) と地方的アメリカの対比を描くことが多い。その対比は、機械文明 vs **伝統精神文化** (5, 6)、無垢 vs 経験、豊かな感性 vs 堅苦しい義務感、**自由と開放** (7, 8) vs 抑制の間で葛藤する心理ドラマとなる。彼の小説の主人公たちは、外面的には国際社会に親近し、内面的には社会の因習を学び、かつそれに打ちまかされることない傍観者の突き放した態度をもつ。

この作家は2つの文学的新手法を開発した。ひとつは **stream of consciousness** (9, 10) と呼ばれる。人間の意識を、時間、空間を越え、**潜在意識まで掘り下げ** (11, 12) トータルに把握し表現する。作中人物の心理の動きをできる限り直接的に表現しようとする実験的な手法をさす。もう一つは、**一人の人物の視点を通して語られる視点** (13, 14) である。人物の見たこと、感じたこと、その人の意識だけが表現される。読者は語り手といっしか一体になる。つまり、読者が作品の中で生きることになる。語り手が世界に疑問を抱きながら生きるが、それと同時に**読者も同じ状況を共に生きる** (15, 16)。このような手法によって表現されるものが彼にとってのリアリティである。sincerity をもって、観察者＝芸術家の目に映る **impression** (17, 18) を再現するとき、それは人生の真実を表現する芸術となると考えたのだ。

彼の書いた幽霊を扱った作品の ***The Turn of the Screw*** (19, 20) では、女性家庭教師の視点から語られる。悪霊は抽象的な「悪」という存在を読者は共有する。

ア：読者も同じ状況を共に生きる、イ：impression、ウ：自由と開放、エ：Henry James、オ：The Turn of the Screw、カ：洗練されたヨーロッパ文化、キ：一人の人物の視点を通して語られる視点、ク：stream of consciousness、ケ：伝統精神文化、コ：潜在意識まで掘り下げ、

B 底知れぬ悪の姿を描くこの作品は、アメリカで 1848 年ころ、マーガレット・フォックス姉妹が霊と交信できることを父親が宣伝したため、センセーションがまきおこり、心霊主義が大流行した時代背景を持つ。女性家庭教師が愛する生徒の Miles を悪霊の Peter Quince と争い、彼女が勝った思った瞬間、 “but at the end of a minute I began to feel what it truly was that I held. We were alone with the quiet day, and his little heart, dispossessed, had stopped. ” と悪霊に Miles の魂を奪われるラストシーンは**読者の背筋を凍らせる** (21, 22)。

1 8 8 0 年頃から結婚だけを人生の目標としない **New Woman** (23, 24) と呼ばれる女性がアメリカ社会史に登場した。セクシュアリティの問題に女性側からの意見や行動で対抗し、その思想は産児制限運動へ発展、女性の「自由」つまり**既成の価値観からの離脱**(2 5, 2 6) を実現しようとした。社会参加による経済的自立を社会改革の手段とした。当時はこの女性たちは男性中心の旧来の社会では異端者と見なされ、よりどころをレズビアン (的) 女性関係に求めることも多かった。

Edith Wharton (2 7, 2 8) はニューヨーク市の富裕な名門の出身で、家庭教師について学び、しばしばヨーロッパに渡り、晩年はパリで生活した。彼女がよく知るニューヨークの上流社会を題材とする作品を次々と発表する。 ***Age of Innocence*** (2 9, 3 0) は Newland Archer と Ellen Olenska との恋愛を基軸に語られる。Newland は伝統的な考えを象徴する妻 May Welland と、新時代の考えを象徴する Ellen Olenska の間で揺れ動く。結局 Newland は伝統的な世界にすみかを求め、新たな時代へ進むことをあきらめる。

産業化がいっそう促進され、アメリカ社会は非人間的な度合いを高めた。Realist よりもいっそう、厳しい社会批判の目を持った作家立ちが作品を発表した。彼らは **Naturalist** (3 1, 3 2) とよばれ、人間は環境に左右され、内面的にも変化し、精神的に墮落すると考える作家たちの信条を持っていた。その一人 **Stephen Crane** (3 3, 3 4) は、95 年 *The Red Badge of Courage* が出版されるや一躍有名になる。この作品では、戦争体験が無くまったくの想像力で書かれたイメージの豊かな、**言葉を節約し、極端に単純化した描写**(3 5, 3 6) で、印象派絵画的な表現法が用いられている。心理的リアリズムを追求は読者の想像力に訴え作品世界への参加を促した。そういう意味でヘミングウェイなどに影響を与えた。

この作品では、英雄的な手柄をたてようと北軍に志願した Henry Fleming は銃撃戦が始まると逃亡し、自己の本能を正当化

するが、偶然殺られてけがをする。部隊に戻ったとき皮肉にもそれが名誉の負傷と勘違いされる。戦争や戦場の事を全く知らなかったヘンリーは戦場で時間を過ごすうち、特殊な環境に慣らされていく。次の文章には “And the most startling thing was to learn suddenly that he was very insignificant. The officer spoke of the regiment as if he referred to a broom. Some part of the woods needed sweeping, perhaps, and he merely indicated a broom in a tone properly indifferent to its fate.” には心理状況をリアリストックに描かく作家の特徴があらわれている。

同じ文学潮流に属す **Theodore Dreiser** (3 7, 3 8) は、1906 年のジレット・ブラウン事件をモデルに、環境と本能に支配される人間の悲劇性を見つめ、物質的成功への夢を無責任にあおるアメリカ社会を批判したアメリカ自然主義の代表的作品をかいた。 *An American Tragedy* である。この作品では階級的、物質的、性的な欲望に駆られた人間の悲劇が描かれる。貧しい伝道師の息子 Clyde Griffiths は伯父の工場で働くうち、女工 Roberta に心をひかれ、深い関係に陥る。だが、社交界の美女 Sondra とも偶然知り合い、交際が進展してゆく。おりあしくロバータに妊娠して結婚を迫り、板挟みになりながらもソンドラとの結婚と富裕な生活を夢みるクライドは、山中の湖にロバータを誘い出し、ボートを転覆させて殺そうとする。しかし決定的瞬間に意志が麻痺してボートは偶然の成り行きで転覆、ロバータは溺死する。政争に利用された裁判の結果クライドは死刑となるが、自分の罪に深い疑惑を抱いたまま死んでゆく。Clyde は殺意を持ってはいたが、事故は偶然に起きて、その結果「都合良く」Roberta は死亡する。彼の罪の曖昧性は、現代社会における**人間存在の不確かさや不毛性、悲劇性**(3 9, 4 0) を強調する。

ア：Theodore Dreiser、イ：人間存在の不確かさや不毛性、悲劇性、ウ：既成の価値観からの離脱、エ：Naturalist、オ：Age of Innocence、カ：読者の背筋を凍らせる、キ：Edith Wharton、ク：Stephen Crane、ケ：New Woman、コ：言葉を節約し、極端に単純化した描写、

C. 第一次大戦がヨーロッパで始まったとき、「**民主主義の敵と戦う**」(4 1, 4 2) という理想の元、多くの若者が戦線に参加した。しかし、戦争による物質的、精神的な荒廃を経験した彼らは、新たな価値観を見いだす必要に見舞われた。

第一次大戦 (1914-18) の前後から、1920 年代にかけて、新たな詩の変革運動が起きた。 **Modernism** (4 3, 4 4) である。この運動は美術および文学上の運動であり、反美学的、反道徳的な態度を特色とするが、運動が行われた時と場所に応じてその性格はかならずしも一様でない。

たとえばフランスでは、**シュルレアリスム (超現実主義)** (4 5, 4 6) がおこった。1924 年、フランスの詩人ブルトンによって開始された文学・芸術上の運動、およびその思想・方法等である。彼の提唱した「自動記述」は「理性によるいっさいの制約、美学上、道徳上のいっさいの先入見を離れた、思考の書き取り」をめざした。

アメリカ、イギリスでは、この運動は **Imagism** (4 7, 4 8) と呼ばれる詩の運動となる。詩に明確で精密なイメージを回復させることを目標とする。この運動に参加した詩人は、純粋に感覚的なものだけを象徴するイメージを使った。思考が感覚の中に溶け込んでしまい、静止した美しいイメージに置き換えられたかのように読者には思える。 **人生的意味** (4 9, 5 0) は何も含まれず、イメージの美しさだけが求められたのだ。

この運動の中心人物、 **Ezra Pound** (51, 52) は、普通の言葉では言い表せない新しい現実、新しい感性を伝えるために、暗示的・間接的表現を使う。難解さを伴うことも辞さない。彼は、比喩＝詩と考えた。感情的、直感的、詩的な印象を生み出す。西洋文化にない要素を含む **日本の俳句、中国の詩** (5 3, 5 4) などの影響を強く受けた。彼が提唱したイマジズムの特色は次の三つである。〔1〕瞬間のうちに知的、情緒的な複合体を呈出すること。〔2〕余剰を切り詰めて、具体的な「事物」それ自体を明確なことばで表現すること。〔3〕因習的な韻律を排して、新しい音楽性をもった韻律を創始すること。文学運動として絵画の領域にできるだけ接近しようとしたこの試みは、19 世紀的な観念的で情緒過剰な詩への激しい挑戦の意図がある。アメリカ人で後にイギリスに帰化したのは、 **T. S. Eliot** (5 5, 5 6) だ。Oxford 大学で博士号を取得した学識の高さが、作品の随所に現れている。世代から世代へと、つねに変化していく我々の感性を、普段、人々が使っている口語に近づくことによりとらえようとした。

彼の代表作は The Waste Land だ。この作品の冒頭は “**APRIL is the cruellest month, / breeding Lilacs out of the dead land, / mixing Memory and desire, / stirring Dull roots with spring rain. / Winter kept us warm, covering / Earth in**

forgetful snow, feeding /A little life with dried tubers. ”（5 7, 5 8）と始まる。ペトロニウス、Dante、Chaucer、the Bible などからのアイデアを継ぎはぎした手法、collage：コラージュ（新聞の切り抜き、写真の一部、劇場の切符、包み紙の切れ端など、本来互いに無関係なものを同一画面に組み合わせて芸術的効果を生み出す手法、またその手法を用いた作品）を使い、タイトルの通り荒廃したヨーロッパ文明の有様を表現している。作品のテーマは**荒廃からの脱出**（5 9, 6 0）である。1948年にノーベル賞を授与された。

ア：“APRIL is the cruellest month,/ breeding Lilacs out of the dead land,/ mixing Memory and desire, / stirring Dull roots with spring rain. / Winter kept us warm, covering/ Earth in forgetful snow, feeding /A little life with dried tubers. ”、イ：Ezra Pound、ウ：「民主主義の敵と戦う」、エ：人生的意味、オ：T. S. Eliot、カ：Imagism、キ：シュルレアリスム（超現実主義）、ク：荒廃からの脱出、ケ：日本の俳句、中国の詩、コ：Modernism、

D. Chicago Group は、1910年代から1920年代にかけてシカゴを中心に活躍したアメリカ中西部の詩人たちのことである。彼活躍は「シカゴ・ルネサンス」ともよばれる。若々しいエネルギーと実験精神にあふれ、自由詩の発展に貢献した。1912年にHarriet Monroe(1860-1936)が月刊詩雑誌『ポエトリPoetry』を創刊し、そのもとに集まった詩人にCarl Sandburg（6 1, 6 2）がいる。新興都市のたくましい姿を歌い上げた自由詩「シカゴ」を含む『シカゴ詩集』（1916）によって、一躍、中西部を代表する詩人と認められた。都会の風景を**庶民的語り口**（6 3, 6 4）で大胆に歌い込むスタイルは、ホイットマンに通じる。アメリカ各地を回ってフォーク・ソングを集め、その普及にも努めた。『アメリカの唄(うた)ぶくろ』（1927）とその『続編』（1950）の二冊のアンソロジーがある。

The Fog comes/ on little cat feet. / It sits looking/ over harbor and city/ on silent haunches/ and then moves on. **Sherwood Anderson**（6 5, 6 6）は、中西部オハイオ州の田舎(いなか)町で生まれる。貧しい少年時代を過ごし、成功の夢を抱いてシカゴに出る。オハイオで塗料の通信販売会社をおこし社長となる。しかし、実業界で出世することのむなしさを痛感する。その頃、創作意欲が高まり、三十代のなかばで作家への転身を決意しシカゴへ赴いた。彼の作品には誇張と歪曲を特色とする表現主義的描法や、筋立てにとらわれない印象主義的構成法という特色がある。代表作 *Winesburg, Ohio* (1919)（6 7, 6 8）では、素朴な語り口ながら前衛的な心理表現を用いて、田舎町の清教主義的な因襲徳徳の支配下にある孤独な人々のグロテスクな内面生活を描いた。この作品のラストシーンには、**近代工業化の波に襲われた**（6 9, 7 0）中西部の農民や手工業者の混乱した田舎町で、若者の語り手の悲痛な疎外感を感じることが取ることが出来る。“He knows that in spite of all the stout talk of his fellows he must live and die in uncertainty, a thing blown by the winds, a thing destined like corn to wilt in the sun. He shivers and looks eagerly about. The eighteen years he has lived seem but a moment, a breathing space in the long march of humanity. Already he hears death calling. With all his heart he wants to come close to some other human, touch someone with his hands, be touched by the hand of another. If he prefers that the other be a woman, that is because he believes that a woman will be gentle, that she will understand. He wants, most of all, understanding.”

保険会社で副社長をしながら詩作をしたのが、**Wallace Stevens**（7 1, 7 2）だ。既成の文学的、歴史的、政治的文脈から解放された、手垢の付いていない言葉を使い、詩とは何か、何故、詩を書くのか、現代における詩の役割とは何かについて探求した。彼は、神という確固たる基盤を失い、混沌とした近代に、秩序や形式を与えるのは詩人で、**詩人の想像力や作品**（7 3, 7 4）が、神（＝宗教）に取って代わるという理念を持っていた。授業で読んだ “Anecdote of the Jar” にはこの理念が表現されている。 “I placed a jar in Tennessee, /And round it was, upon a hill. /It made the slovenly wilderness /Surround that hill.”（7 5, 7 6）では、人工物を自然の舞台に置き、イメージネーションが新たな言語による世界を生み出すことを表現した。

産科医師として働き、夜詩作をしたのは**William Carlos Williams**（7 7, 7 8）だ。「生きたままつかまえてきて、紙に書き留められた」アメリカ口語の簡潔な表現で、身の回りの**具体的な「もの」を直接扱う**（7 9, 8 0）ことを信条とした。（つ

づく）

ア：**近代工業化の波に襲われた**、イ：“I placed a jar in Tennessee, /And round it was, upon a hill. /It made the slovenly wilderness /Surround that hill.”、ウ：William Carlos Williams、エ：詩人の想像力や作品、オ：庶民的語り口、カ：*Winesburg, Ohio* (1919)、キ：Carl Sandburg、ク：Wallace Stevens、ケ：Sherwood Anderson、コ：具体的な「もの」を直接扱う、

E. 大げさな言葉を使わずに、客観的な描写を心がけた。素朴で何気ない光景を描いている。ささやかな光景のなかに大切さがある。実在の本質が暗示されている。即物的で、イメージのもつ情緒的喚起力に頼る。俳句に近い感覚。“Less is more”と言った Mies van Der Rohe や「言ひおおせて（いってしまつて）なにかある。」と言った芭蕉などが示した方向性の中で詩作した。授業では彼の “Transition” という詩を読んだ。その作品は次のようである。 “**First he said:/ It is the woman in us/ That makes us write—/ Let us acknowledge it—/ Men would be silent./ We are not men/ Therefore we can speak/ And be conscious/ (of the two sides)/ Unbent by the sensual/ As befits accuracy.**”（8 1, 8 2）

2 0年代には共和党大統領が3代続き、実業界の利益重視型政策を実施。大資本家への独占的経済集中がおきる。物質的繁栄と大衆文化が隆盛。この1 0年間は狂乱の2 0年代(Roaring Twenties)、あるいは**Jazz Age**（8 3, 8 4）と呼ばれる。

第一次大戦初期、アメリカは**中立主義**（8 5, 8 6）をとった。しかし、ドイツ軍国主義の脅威に対抗し自由主義的世界秩序を維持するため参戦する。戦後ヨーロッパ復興に多額の経済支援をし、ヨーロッパをアメリカ経済に依存させることに成功。海外投資、国内産業の発展が目覚ましく、一人あたり実質所得は1 9 2 1年、5 2 2ドルから1 9 2 9年、7 1 6ドルに伸びた。

アメリカは2 0年代、国勢調査で都市人口が農業人口を上回り、都市の時代を迎えた。**Henry Ford**（8 7, 8 8）の考案したベルトコンベアー式流れ作業により、安価に大量の商品であるModel Tが庶民の生活に浸透した。Fordismは生産効率や生産システムを作り上げただけでなく、工員の給料引き上げも行い、余暇時間を増やし、自動車社会を確立しアメリカに社会変革をもたらした。こうして**大量消費社会**（8 9, 9 0）が出現する。

自動車、ラジオ、洗濯機が普及する。通信販売やセールスマンにより、大量生産された製品が売りさばかれた。生活様式は画一化し、清教徒的禁欲主義が薄れた。

この時代は保守的で、非寛容な時代でもあった。排他的で愛国主義的なWASP至上主義、禁欲的な宗教観が叫ばれた時代でもあった。無政府主義者のイタリア移民の二人が証拠もなく死刑判決を受けた Sacco-Vanzetti Case がおこる。また、聖書の記述を忠実に信じ、進化論を排撃するファンダメンタリズムも盛んになった。さらに、移民排斥を目的とする移民制限法（1 9 2 4年）が成立する。禁酒法Prohibitionの成立（1919-33）にともない、シカゴなどの大都市では、酒の密売、密造を資金源にギャングが躍する。Al Capone はイタリア系ギャング団のボスとして有名。

大学進学率が上昇し、マスメディアの発達（ラジオ局、タイム誌創刊など新聞出版界の活況）があり、大衆文化が発達する。プロスポーツやミュージシャン、映画俳優などが大衆の英雄となる。1 9 2 7年、Charles LindberghがSpirit of St. Lewis号で大西洋無着陸単独飛行に成功したことを、大衆は異常な熱気で歓喜した。

アメリカにおいて、第一次世界大戦中に成年期を迎え、戦争体験を通じて、既存の思想、道徳、宗教に不信の念を抱き、またアメリカ文化の俗物性に絶望し、新しい生き方を求めた世代を **Lost Generation**（9 1, 9 2）と呼ぶ。この名称は、**Gertrude Steain**（9 3, 9 4）がパリでヘミングウェイにいったことばを、ヘミングウェイが処女長編の見返しに用いたことから有名になった。

その彼女は一時医学を志したが、断念して海外に渡り、1903年以降フランスに定住した。ピカソやマチスなどの新しい絵画の収集者となり、文学サロンをパリで開いて、ヘミングウェイ、パウンド、ジョイスなど若い作家たちが出入りした。その手法は**キュビズム**（9 5, 9 6）の絵画や当時の新しい映画の方法に似ている。また、ことばの意味は全く重視せず、音を重んじた。**文法構造**（9 7, 9 8）を大胆に無視したその詩風は破壊的なものである。関連の薄い語を組み合わせ、意外性に満ち

た感覚を読者の脳裏に喚起させる。現在分詞や動名詞などの同一語を繰り返すことで、**持続する現在**（9 9, 1 0 0）という独自の意識が表現される。つづく

ア： “First he said:/ It is the woman in us/ That makes us write—/ Let us acknowledge it—/ Men would be silent./ We are not men/ Therefore we can speak/ And be conscious/ (of the two sides)/ Unbent by the sensual/ As befits accuracy.”

、イ：Lost Generation、

ウ：持続する現在、エ：文法構造、オ：Jazz Age、

カ：中立主義、キ：大量消費社会、

ク：キュビズム、ケ：Henry Ford、コ：Gertrude Steain、

F. “I see the luck/ and the luck sees me/ I see the lucky one be lucky. / I see the love/ and the loves sees me.”

（1, 2）という “Sonnets That Please” という作品にはその特徴が表れている。

この時代の若いアメリカ人作家たちは伝統的なアメリカ社会や価値観からの脱出をはかり、パリに亡命した。戦争後、上品ぶる姿勢をなくし、自由を拡大していた社会で、円熟したヨーロッパの社会で人間関係の複雑さをもつ環境で、開放感を味わう。社会とのきずなを失い、文明の外で生きようとした。また、**自然のままの、原始的な肉体としての自己**（3, 4）に帰ろうとした。彼らは3 0年代には祖国へもどり、人間性の回復を求めて活動した。自分たちの状況や精神を表現するためさまざまな方法を試してみた。

Francis Scott Fitzgerald (1896– 1940)（5, 6）は、ほかのこの世代の作家たちと異なり、戦場に赴くことなく、終戦まで内地勤務であったため、彼の文学は戦後アメリカの社会風俗を描いたところに特色がある。若い世代の生態を赤裸々に描き、古い道徳と決別し、自らの生き方を模索する彼らの状況をとらえる。代表作は *The Great Gatsby*（7, 8）だ。これは荒廃した 20 年代の物質主義文明のなかで、いかに「アメリカ人の夢」がゆがめられ崩壊するかを「二重の視点」から描いた作品だ。時代の風俗や感性を内側から生き生きと描出すると同時に、一方では、覚めた目で批判的に観察する作家の姿勢がユニークである。

主人公のジェイ・ギャツビーは貧しさ故にふられた恋人を自分のものにするため酒の密売をして巨万の富を得て、富豪になる。全てを捧げることで、ようやく彼女を手に入れようとする。あげく彼女が誤ってひき殺した女を守ろうとするが、その夫に撃ち殺される。彼は金や愛を手に入れながら、常に崩壊感覚やむなしさを感じている。その彼の偉大さを語るのは、中西部から東部の文化にあこがれてやって来た素朴な若者 Nick Carraway の次に示す最後の語りは、アメリカと言う土地と二〇年代の生き方が連続性を持つことを示している。 “Gatsby believed in the green light, the orgastic future that year by year recedes before us. It eluded us then, but that’s no matter – tomorrow we will run faster, stretch our arms farther… And one fine morning ——So we beat on, boats against the current, borne back ceaselessly in to the past.”（9, 1 0）

Earnest Hemingway（1 1, 1 2）（1899– 1961）はシカゴ郊外の町オーク・パークに生まれた。医師である父の釣りや狩猟の野外趣味と、音楽・絵画をよくした母の芸術的才能を受け継いだ。高校卒業後、大新聞『カンザス・シティ・スター』紙の記者となり、つねに事件の現場に居合わせようとする生き方をこのときから示し、同時にむだのない文章を学ぶ有益な機会を得た。

彼の感情を排したドライな文体は **Hardboiled Style**（1 3, 1 4）と呼ばれる。文体や物語の構成の簡潔さを追求し、読者のイマジネーションを喚起し、省略した部分をそれぞれの心の中に生起させようとする「**氷山の理論**」（1 5, 1 6）を作り上げた。ノーベル賞を受賞するきっかけとなった作品、*The Old Man and the Sea* には次のような琴線に触れる表現が見られる。Just before it was dark, as they passed a great island of Sargasso weed that heaved and swung in the light sea as though the ocean were making love with something under a yellow blanket, his small line was taken by a dolphin. He saw it first when it jumped in the air, true gold in the last of the sun and bending and flapping wildly in the air.（1 7, 1 8）

John Dos Passos（1 9, 2 0）は1920年代と30年代のアメリカの偽善と物質主義を攻撃した。「ニューズリール」手法、「カ

メラ・アイ」手法、万華鏡的な手法が独自の作品世界を生み出した。*Manhattan Transfer*（1925）は実験的小説だ。大都市ニューヨークに生きる五十名余りの人物を、目まぐるしく描写の対象を変えながら同時進行で描きだそうとする。また、現実と空想の境目が取り外された表現は新たな比喻表現の世界を表している。

ア：John Dos Passos、イ：「氷山の理論」、

ウ：*The Great Gatsby*、エ：自然のままの、原始的な肉体としての自己、

オ：Hardboiled Style、カ：Francis Scott Fitzgerald (1896– 1940)、キ：、Earnest Hemingway

ク：“Gatsby believed in the green light, the orgastic future that year by year recedes before us. It eluded us then, but that’s no matter – tomorrow we will run faster, stretch our arms farther… And one fine morning ——So we beat on, boats against the current, borne back ceaselessly in to the past.”、

ケ：“I see the luck/ and the luck sees me/ I see the lucky one be lucky. / I see the love/ and the loves sees me.”、

コ：、Just before it was dark, as they passed a great island of Sargasso weed that heaved and swung in the light sea as though the ocean were making love with something under a yellow blanket, his small line was taken by a dolphin. He saw it first when it jumped in the air, true gold in the last of the sun and bending and flapping wildly in the air.